

中長期計画 2024-2030

誰でもできる「新しい氷上の楽しみ」を創る

2024.6.3

一般社団法人日本車いすカーリング協会

-第1版-

はじめに

「氷上の楽しみを多くの人へ」

はじめは、2004年世界選手権に帯同したコーチが日本での普及活動を開始したことでした。医療機関の障がい者の方へ「楽しみ」の一つとして、提案をしました。そして、体験会の実施の輪が広がり、同年に第1回日本車いすカーリング選手権大会が開催されました。「信州チェアカーリングクラブ」「埼玉チェア」の2チームが参加をし、大会の歴史が始まりました。

「氷上のチェス」と呼ばれるカーリング競技であり、車いすに乗りながら競技を行います。年齢や性別、身体状態など様々な違いがあっても「誰でも」「気軽に」できるスポーツが「車いすカーリング」です。競技力強化の面では、パラリンピック出場が一番の目標です。また、楽しみの一つとして、するスポーツとしても、多くのステークホルダーと共に「ワクワク」できる機会の創出を目指していきたいと思います。

本計画は、2030年パラリンピック競技大会を目標地点として、作成した中長期計画です。そのためには、この計画を読んでいる皆様と共に「車いすカーリング」の未来に向けて小さなことから行動していかなければなりません。どのようなことでも構いませんので、ご協力を頂けると幸いです。

「氷上の楽しみを多くの人へ」を届けるために、精一杯の邁進していきたいと思います。

一般社団法人日本車いすカーリング協会
中長期計画策定プロジェクトチーム一同



私たちのこれまで

はじまり

世界選手権で車いすカーリングの競技を知り、日本での活動を開始。

2004

パラリンピック出場

バンクーバーパラリンピックに出場。10位の成績を収めた。

2010

外部人材の登用

外部人材として、弁護士や経営者など様々なバックグラウンドを持つ人材が理事に就任した。

2021

第1回日本選手権を開催

カーリングホールみよた（長野県御代田町）にて、第1回日本車いすカーリング選手権大会を開催。信州チェアカーリングクラブが優勝。

2004

協会の法人化

これまで活動していた団体が解散し、一般社団法人として再スタートをした。

2017

車いすカーリングは、1990年代にヨーロッパで始まったパラスポーツである。日本では、2004年から活動を開始し、2006年からはパラリンピックの正式種目となった。競技としては、黎明期だったが、2010年バンクーバーパラリンピック競技大会に出場した。その後は、パラリンピック出場ができず日本における競技力向上や競技人口の拡大は停滞していた。

2017年に法人化を行い、競技力向上や普及面等を組織基盤を整えることで、競技を側面支援することを決定した。外部人材の登用や様々な補助金を活用し、協会運営の拡大と適正化を図った。

私たちの組織体制



私たちを取り巻く環境

強み Strength

- ・カーリング競技認知の高まり
- ・多様な人材の登用
- ・数少ない冬季パラリンピック種目
- ・健常者と障がい者が同じフィールドでプレイできる特性

弱み Weakness

- ・活動エリアが限定的
- ・世界に比べ、競技力が未成熟
- ・ジュニア層の競技者発掘ができていない
- ・組織体制が脆弱

機会 Opportunity

- ・ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン（DEI）への興味関心
- ・医療や薬剤、器具の進歩
- ・VRやARなどのテクノロジーの進化

脅威 Threat

- ・円安や物価高
- ・余暇環境の変化による選択肢の多様性

カーリング競技の人気の高まる一方で、競技環境は地域が限定される。車いすカーリング競技に関しては、競技者発掘が課題である。しかし、DEIへの関心やテクノロジーの進化など外部環境への好影響も大きい。本協会では、組織基盤を固めることに加えて、パラ種目やカーリングならではの価値を様々なステイクホルダーと共創し、社会へ対して価値提供を行っていく。

私たちの目指すもの

Vision

誰でもできる「新しい氷上の楽しみ」を創る

Mission

世界で活躍できるアスリートを輩出する
新しい「ワクワク」としてのスポーツを提供する

2030年までの重点目標

- 競技力強化
タレント発掘・育成のパスウェイを構築し、パラリンピック出場者を輩出する。
- 組織体制&ガバナンス
会員200人、自主財源を1500万円確保し、事務局体制基盤を構築する。
- ダイバーシティ & Well-being
共生社会パートナー企業や自治体と共に活動拠点としている6エリアに加え、新たな拠点での普及イベント実施する。



重点目標達成に向けて

2030年までに価値提供をステークホルダーとともに共創し、目標達成を目指す



◆ 競技力強化を推進

選手やコーチ、スタッフと共に環境面の充実をし、パラリンピック出場を目指します。

◆ 支援機関との連携

JPCやパラサポなどと連携し、組織基盤の自立化を目指します。

◆ 適正な協会運営

理事会、事務局、委員会、部門が一体となり、透明性のある協会運営を目指します。

◆ スポンサー企業への価値提供

協会や車いすカーリングのプレゼンス向上を図ることに加え、競技を通じた多様な社会実現に貢献します。

◆ する人、見る人への楽しみの提供

「新しい氷上のワクワク」を車いすカーリングを通じて提供します。

◆ 支えてくれる人との連携

ボランティアなど、様々な形で支えてくれる人を大切に、持続的な連携を目指します。

重点目標における担当部門

各重点目標達成のため、担当部門を明確にし、部門間連携を図ることとする



競技力強化推進部 競技力向上

重点目標対象	競技力強化		
目的	国際大会でのメダル獲得により強豪国の仲間入りをする（世界ランキング5位以内を継続）		
主担当/サブ担当	金子恵美/余吾由太		
成果目標	2030年パラリンピックでのメダル獲得		
アクションプラン	強化指定チームごとの組織体制（スタッフの確保）の強化を図り、強化活動を指導する 国際大会への参加を促すと共に帯同スタッフ経験不足を補うために各地へ派遣する		
KPI	①世界選手権（Mixed）2025年予選3位以内、2026年～28年本選入賞、2029年メダル獲得、2030年パラリンピック出場 ②世界選手権（Mix Doubles）2025年メダル獲得、2026年パラリンピック出場、2027年～29年世界選手権メダル獲得、2030年パラリンピック入賞 ③国際大会（アジアチャンピオンシップ）2024年-25年メダル獲得、2025年-26年2位、2027年1位、以降メダル常連国		
関与するステークホルダー	強化指定選手、指導者、団体役員（専門委員含む）、健常アスリート、海外協力スタッフ		
フェーズ別アクション	Phase1（2024～2026年）	Phase2（2027年～2028年）	Phase3（2029年～2030年）
	<ul style="list-style-type: none"> 国際大会への派遣（選手・スタッフ） 強化対象チームへの強化指標の徹底 強化スタッフ活動基盤構築 	<ul style="list-style-type: none"> 世界選手権派遣 	<ul style="list-style-type: none"> 次世代チームの海外合宿 パラリンピック出場及びメダル獲得

競技力強化推進部 発掘・次世代育成

重点目標対象	競技力強化		
目的	タレント発掘・育成のパスウェイ構築仕組みからパラリンピック出場者を輩出する。		
主担当/サブ担当	有野正樹 / 余吾由太		
成果目標	2025年までに次世代アスリート評価育成制度を整備し、エリート、ターゲットアスリートの強化合宿を定例化していく 2026年各分野のエキスパートを最低1名ずつ確保し2030年に向けた体制を整える		
アクションプラン	<ol style="list-style-type: none"> 1) J-STARプロジェクトの活用および団体主催の発掘トライアルを年に2回開催 2) 年に2回の専門スタッフを対処としたオープンのミーティングおよび体験会を開催 3) パスウェイの構築、評価指標作成 4) アスリート教育の実施（競技技術以外のところ） 		
KPI	①次世代エリートアスリート4名 ②ターゲットアスリート4名の確保と指導者登録30名の確保		
関与するステークホルダー	次世代選手、指導者、都道府県協会、各地域障害者スポーツ協会、障害者スポーツクラブなど		
フェーズ別 アクション	Phase1 (2024～2026年)	Phase2 (2027年～2028年)	Phase3 (2029年～2030年)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ J-STARプロジェクトとの共同計画実施 ・ トライアルおよび体験会の計画及び実施 ・ 次世代育成選手を中心としたチームを編成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 団体主催トライアルの開催 ・ ターゲットアスリートチームでアジア大会エントリー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競技転向の若手アスリートの獲得 ・ 次世代育成選手で構成したチームが世界選手権でメダルを獲得

競技力強化推進部 競技運営

重点目標対象	競技力強化		
目的	大会運営における組織体制及び運営ノウハウの構築 協力者を獲得し、アスリートファーストな大会運営を実施する		
主担当/サブ担当	徳川康久/有野正樹・余吾由太		
成果目標	2026年に国内で国際大会を開催／2028年にアジア大会を日本で開催する		
アクションプラン	<ol style="list-style-type: none"> 1) 競技運営部の組織構築及びリーダーの育成 2) 外部協力者を募集し各種大会や合宿での起用 3) 日本選手権大会その他の競技大会の開催 4) 競技規則に関する講習会の開催 5) 国際競技大会等の開催並びに国際競技大会へのスタッフ派遣 		
KPI	<ol style="list-style-type: none"> ①競技運営部8名体制の構築（ゼネラルマネージャー、予実管理、進行管理、審判指導、IPA指導、広報、渉外担当、事務手続担当） ②ボランティア登録50名獲得 		
関与するステークホルダー	選手、都道府県協会、ボランティアスタッフ		
フェーズ別 アクション	Phase1（2024～2026年）	Phase2（2027年～2028年）	Phase3（2029年～2030年）
	<ul style="list-style-type: none"> ・運営ノウハウの再構築 ・各部門リーダー育成と各種大会への派遣 ・ボランティア管理の組織体制を整える 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際大会（オープンエントリー）開催 ・競技スタッフの海外研修実施 ・協会スタッフの中から審判資格A保持者を排出し、自主運営体制の整備を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・MD国際大会の国内開催

組織基盤強化部 マーケティング

重点目標対象	ガバナンス・組織体制の構築及びダイバーシティ・well-beingの実現		
目的	車いすカーリングを「価値の見出せるもの」としていく		
主担当/サブ担当	大野淳一郎 /TBD		
成果目標	2030年代に自己資金1500万円を確保する事		
アクションプラン	1) スポンサーセールス/社会共生パートナーとの協業 ・ JWCAが提案できるコンテンツの充実を図る ・ 車いすカーリングが持つコンテンツを必要とする企業の抽出する 2) 会員マネジメント ・ ライトユーザーの会員増加を狙い、JWCA会員区分法変更		
KPI	①現在契約中の企業との契約を継続し、隔年ごと年間契約額の10%増加 ②2026年以降、新規計画企業数を毎年2社の契約 ③P.UNITEDからの協賛金獲得 ④ライトユーザーが加入しやすい会員区分を作り、毎年10%以上の会員増を目指す		
関与するステークホルダー	スポンサー企業、社会共生パートナー企業、選手、広告代理店、P.UNITED		
フェーズ別 アクション	Phase1 (2024~2026年)	Phase2 (2027年~2028年)	Phase3 (2029年~2030年)
	<ul style="list-style-type: none"> 既存契約企業との契約延長 会員数増を目指すための区分変更の協議 P.UNITED活動の継続 	<ul style="list-style-type: none"> 既存契約企業の契約金増額 新規企業との契約 新会員区分での会員獲得 P.UNITED活動の継続 	<ul style="list-style-type: none"> 既存契約企業の契約金増額 新規企業との契約 会費収入の2/3が競技者以外からの会費収入になる P.UNITED活動の継続

組織基盤強化部 競技普及

重点目標対象	ダイバーシティ・well-beingの実現		
目的	地方自治体やJCA、都道府県協会、スポンサー企業、社会共生パートナー等の様々なステークホルダーと共に車いすカーリングの価値を普及していく		
主担当	有野正樹/余吾由太		
成果目標	車いすカーリングの普及を図り、競技者、指導者、ボランティアの増加を図る		
アクションプラン	<ol style="list-style-type: none"> 1) 指導者養成講習会の開催 2) 体験会の開催 3) 新しい競技拠点との協力体制構築 		
KPI	①ボランティア登録者数の把握増加 ②指導員資格所得者数増加 ③競技拠点の2箇所増加		
関与するステークホルダー	地方自治体、JCA、都道府県協会、スポンサー企業、社会共生パートナー、講師スタッフ、選手、ボランティアスタッフ		
フェーズ別 アクション	Phase1 (2024~2026年)	Phase2 (2027年~2028年)	Phase3 (2029年~2030年)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア登録制度の構築 ・体験会イベントを毎月1回以上のイベント開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者養成講習会を毎月1回以上開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・各都道府県協会に1名以上の指導員を配置

組織基盤強化部 財務委員会

重点目標対象	ガバナンス・組織体制の構築		
目的	業務を効果的に遂行し、安定的かつ持続的な組織運営を実現する組織基盤の強化		
主担当/サブ担当	有野正樹/ 大場恒雄・大崎哲也・伊藤友博		
成果目標	財務基盤の強化と安定的な財務管理を構築する		
アクションプラン	<ol style="list-style-type: none"> 1) 予算案の作成、各委員会への予算折衝 2) 予算執行の監督、四半期毎の資産状況の確認と必要な財務施策の立案と実施 3) 財務構造の分析と中長期の財務計画の立案 4) 適正な経常比率の維持 5) キャッシュフローのマネジメント 		
KPI	①予算管理体系の確立、②財務構造把握、③中長期の財務計画の立案		
関与するステークホルダー	各委員会		
フェーズ別 アクション	Phase1 (2024~2026年)	Phase2 (2027年~2028年)	Phase3 (2029年~2030年)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算管理体系の確立 ・ 財務構造分析と将来予測 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中長期の財務計画の立案 	<ul style="list-style-type: none"> ・ TBD (外部・内部環境変化による)

組織基盤強化部 総務委員会

重点目標対象	組織体制・ガバナンスの構築		
目的	安定かつ継続した運営基盤の確立		
主担当/サブ担当	竹村鮎子/TBD		
成果目標	組織の人員属性に左右されない体制作り		
アクションプラン	<ol style="list-style-type: none"> 1) スポーツガバナンスコード対応（各規程の整備） 2) 事務局体制の構築 3) カーリング精神を尊重した組織作り 		
KPI	①ガバナンスコード達成率		
関与するステークホルダー	JPC、パラサポ、各士業関係者		
フェーズ別 アクション	Phase1（2024～2026年）	Phase2（2027年～2028年）	Phase3（2029年～2030年）
	・ガバナンスコードに基づく組織作り	・カーリング精神を尊重した組織作り	・TBD（外部・内部環境変化による）

専門委員会 医科学委員会

重点目標対象	競技力強化及びガバナンス・組織体制の構築		
目的	強化選手及び関係者への身体的支援		
主担当/サブ担当	土屋志保／對崎利香子・岡田英之・北村麻里奈		
成果目標	選手が自分自身の心身の健康の維持・向上ができ、ロールモデルとなること。 学んだことを自ら発信できるようになること。		
アクションプラン	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本代表強化 2) アンチ・ドーピング教育 3) 使用薬・サプリメント等の使用についての教育（スポーツファーマシスト） 4) 食事についての教育（スポーツ栄養士） 5) 選手個々の障害に応じたトレーニング（トレーナー） 		
KPI	①E-ラーニングなどのテスト正答数 ②栄養士やトレーナーの協力者数の増加値		
関与するステークホルダー	事業推進のために必要な協力者		
フェーズ別 アクション	Phase1（2024～2026年）	Phase2（2027年～2028年）	Phase3（2029年～2030年）
	・選手に対する教育活動	・TBD（外部・内部環境変化による）	・TBD（外部・内部環境変化による）

専門委員会 アスリート委員会

重点目標対象	競技力強化及びガバナンス・組織体制の構築		
目的	選手が競技に集中できる環境を整える		
主担当/サブ担当	市川勝男/TBD		
成果目標	2026年以降、パラリンピック出場を継続的に輩出し、世界大会でのメダル獲得を狙う		
アクション	1) 選手へのアンケートやインタビューの実施 2) アンケートやインタビュー結果を事業に反映するべく、各部門とのコミュニケーション機会の創出		
KPI	①アンケート回答率80% ②選手が希望したことの反映5件以上		
関与するステークホルダー	選手、本協会各セクション		
フェーズ別 アクション	Phase1 (2024~2026年)	Phase2 (2027年~2028年)	Phase3 (2029年~2030年)
	<ul style="list-style-type: none"> アンケートやインタビューの実施及び検証 事業反映に向けての折衝及び実施 	<ul style="list-style-type: none"> TBD (外部・内部環境変化による) 	<ul style="list-style-type: none"> TBD (外部・内部環境変化による)

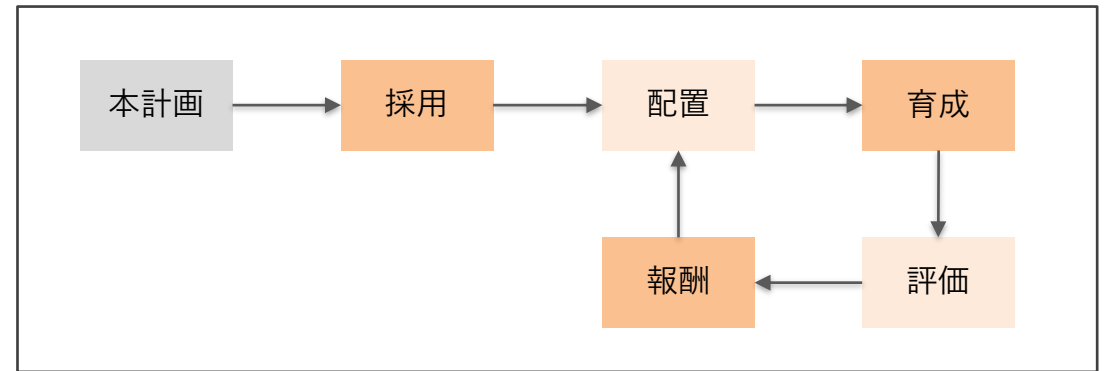
事務局

重点目標対象	競技力強化及びガバナンス・組織体制の構築、ダイバーシティ・well-beingの実現		
目的	人材マネジメント及び適正な協会運営の実施		
主担当/サブ担当	有野正樹/TBD		
成果目標	人材の雇用及び育成を行い、アスリートファーストな協会運営を行う		
アクション	1) 外部人材の登用 2) 事務局人員の増員（副業兼業・パート・アルバイトなど） 3) ガバナンスコードの遵守		
KPI	①外部理事率25%・女性理事40%の達成及び継続 ②事務局員4名体制の達成 ③ガバナンスコード達成率		
関与するステークホルダー	協会職員、理事、JPC、パラサポ、協力企業など		
フェーズ別 アクション	Phase1（2024～2026年）	Phase2（2027年～2028年）	Phase3（2029年～2030年）
	<ul style="list-style-type: none"> 事務局増員のための人員獲得 就業規則及び人事評価制度の策定 	<ul style="list-style-type: none"> TBD（外部・内部環境変化による） 	<ul style="list-style-type: none"> TBD（外部・内部環境変化による）

人材採用及び育成に関する計画

人材戦略システム（右図）を構築する。現在2名の事務局体制で事業を行っている。昨年度には事務局長が退任し、ハイパフォーマンスディレクターに就任したことを受け、事務局長の交代が行われた。今後は、現在の職員が意欲的かつ離職せずに働く仕組みを構築することや、まだ採用できていない事務職員の採用も含めた人材マネジメント施策を講ずる。

人材戦略システム



人材採用

2024年度には、兼業副業人材の事務局員を雇用を行う。また、2025年度には、理事の任期満了に伴う役員選考がある。役員選考には、前回同様に外部人材を登用するために民間の求職ウェブサイトのサービスを活用する。また、応募者の中から各部門や委員会での人材も獲得を狙う。

人材育成

理事の役員研修会を2年に1回実施を行う。外部理事が多いため、競技についての深化を重点的に行う内容とする。加えて、事務局員は副業兼業者が多く占めることになるため、オンボードでの育成時間の確保が難しい。そのため、定期的な対面でのコミュニケーション及びOJTの時間を確保することに加え、オンランツールを最大限活用した事務局体制を構築する。

報酬

本計画で示している自主財源1,500万円を目標にし、その金額の一部を人材採用や育成予算に充当する。また、組織人員が増えた場合は、評価制度や給与規定等を策定し、職員のモチベーション向上施策を続けていく。

計画の見直しに関して

本計画のPhase1終了時である2027年にKPIや成果の評価を行い、
達成度や環境変化を鑑みた計画の見直しを行うこととする。

組織概要

名称 : 一般社団法人日本車いすカーリング協会

代表理事 : 竹村 鮎子

住所 : 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル4階
日本財団パラスポーツサポートセンター内

メール : jwc@jwca-est-2017.org